

## 「極大極小」の合否判定基準

- 2つの偏導函数のうちひとつでも間違っ求めているものは、そのあと正しい推論をしているか判定のしようがないのでその時点で「否」。その答案の残りの部分はチェックしない。
- $\frac{\partial z}{\partial x} = \frac{\partial z}{\partial y} = 0$  の解が足りなかつたり洩れがあつたりするものは「否」。その答案の残りの部分はチェックしない。
- $\frac{\partial z}{\partial x} = \frac{\partial z}{\partial y} = 0$  の解を求める過程で論理的に誤つた推論を用いたものは、正しい解とたまたま一致している場合も含めて「否」。その答案の残りの部分はチェックしない。
- $\frac{\partial z}{\partial x} = \frac{\partial z}{\partial y} = 0$  の解は正しく求まつても、極大極小の判定法を理解していないと思われるものは「否」。
- $\frac{\partial z}{\partial x} = \frac{\partial z}{\partial y} = 0$  の解を正しく求めた後、極大極小の判定法は理解しているもののちよつとした計算間違いをした場合は「可」。
- 答は正しいが、答をどのように求めたのか不明なものは「可」または「否」。
- 「可」の答案に書かれた指示を一つでも無視して再提出した場合は「否」。